

デジタル化推進特別委員会記録

令和4年4月22日

【開催日】 令和4年4月22日（金）

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午後2時10分～午後2時50分

【出席委員】

委員長	伊場 勇	副委員長	恒松 恵子
委員	白井 健一郎	委員	藤岡 修美
委員	前田 浩司	委員	山田 伸幸

【欠席委員】 なし

【委員外出席議員等】

議長	高松 秀樹		
----	-------	--	--

【執行部出席者】 なし

【事務局出席者】

事務局長	河口 修司	事務局次長	島津 克則
庶務調査係長	田中 洋子		

【審査内容】

1 議会のICT化について

午後2時10分 開会

伊場勇委員長 皆さんこんにちは。ただいまより、デジタル化推進特別委員会を始めます。本日は付議事項、議会のICT化についてということなんですが、先週に業者の方に来ていただいて、実際にタブレットを使って、アプリケーションを操作していただきました。議員の方と、あと執行部の方も参加していただいて、デモ体験をしたわけですが、それについて、どうだったのかということについて、意見交換をして、実際に運用していく中でこういうことをしたらふさわしいんじゃないかということに導き出していきたいなというふうに思っています。それでは、デモ体験について、御意見、御感想をお願いいたします。

山田伸幸委員 正直申しまして、初めてですから、複数のものを見てみないと分からないというのが率直なところですね。私、他市議会の分を三つぐらいに見ていますが、やはり議会によって違っているし、それを同時に見てみないと、いいところ悪いところ、実際に使われている議員さんにお話も聞いてみないと分からない。先日は先日で、そういう使い方なんだな、もう少し精通しなくちゃいけないなというのが率直な感想でした。

伊場勇委員長 実際、使ってみて、大きさとかどうでしょうか。文字の大きさとか、そういったところもどうだったかなと思うんですけど、いかがでしょうか。

山田伸幸委員 日頃14インチから15.6インチを使っているのですが、それからすると小さいですね。それと、基本的にいつもキーボード等を準備しているんですけど、タブレットとなるとキーボードは別になりますから、それが使いこなせるかなというのは、ちょっとあります。

伊場勇委員長 実際、デモ体験で使ったのは12.9インチだったんですけども、これ県内他市町ではこの大きさを使っていて、あれ以上大きいと、持ち運びとかの問題もあって、いろいろ使いやすいのがいいかなと思うんですけど、そのほか意見ございますか。

前田浩司委員 いや、個人的には大きさは特に問題ないという認識です。使い方については、まだまだ初めてだったんで何回かちょっとレンタルじゃないですけども、ちょっとお貸ししていただいて、ちょっと使う時間が今後あればいいかなというのが希望です。

山田伸幸委員 実際に議案の審査のときなんかには、やはり資料と議案書、それぞれ見れるといいなというのが率直な感想です。ですから、その12インチに二つを表示させながらというのは、ちょっと厳しいなというの

を感じました。

伊場勇委員長 12.9インチで二つがちょっと見にくかった、それを大きくしたら見やすくなるかと思う。それが15インチとか、15.6インチでしたっけ。

山田伸幸委員 日頃、私は自分で家庭ではノートパソコンとそれとは別にディスプレイを置いて、ダブルでやっているんですよ。だから、それで片方で資料出して、片方で入力したり検討したり、データをやり替えたりしているんで、あれを1台で一つの画面で全部やるというのは、とてもつらいなと思っています。

藤岡修美委員 以前、他市議会の導入のタブレットは、12.9インチ、山口市は10.5インチか。実際、これで議案審査のときに、議案とか見ながら対応できているのかどうかというのは、ちょっと他市議会に聞くのも手かなとは思いますがね。

伊場勇委員長 そうですね。他市町になかなか行けていないので、コロナで。実際に、議案をどういうふうに見ているのかというのも、視察で行けたらいいなと思います。実際使っていくときにマーカーとかメモとかをしていくことが、やはり便利になっていくのかなというふうに思うんですけども、あの機能について必要かどうか、どういうふうに思われたか、いかがですか。

恒松恵子副委員長 いろいろ基本的な機能を教えていただきました。大きさはちょうど良かったかなと思うんですが、今のマーカー機能とかペン機能は、やはり議員の使い資質というかですね、どのように活用するかはもう本人次第と思うので、今のマーカーにしても、他人に見せるものでもないという認識であれば、使いやすいかなと思いました。

伊場勇委員長 しっかりすぐ使えた方もいらっしゃれば、なかなかこう慣れない議員の方もいらっしゃって、その辺はやはり差があるんだなというのをすごい感じたんですけども、2回教えたら、慣れていない方もそれなりにできてらっしゃった。今後、導入するに至って、教える方がやはり責任持ってちゃんと指導していけば、できるようにはなるのかなというふうには思ったんですけど。

山田伸幸委員 もうそれに決まってしまうと、慣れていくしかないんですよ。だから、あとはそれに自分で独自でバリエーションをくっつけられると、例えば、2台持ってきてもいいとか、そういうふうになると、また使い勝手が変わっていくのかなと思いますけどね。私自身が日頃からダブル画面でやっていますので、1画面に資料も議案書も出したりというのは、ちょっと自分でも困るなというのを思っています。それと、やはり何社か見てみたいというのが率直なところです。

伊場勇委員長 何社かというところありますけど、今回はモアノートを使用しました。そのアプリケーションについて、他のという意見ありましたけど、その辺意見いかがでしょうか。

恒松恵子副委員長 今回、モアノートを使用したということですが、ちょっと私は比較するものがないので、よく分かりません。

山田伸幸委員 県内でもかなり早かった美祢市の議員は使いなれておられるんじゃないかなと思うんです。だから、向こうの議会に見に行くとか。ただ、今工事中ですけどね。実際にどういうふうに使っているかというのを見てみたいですね。あそこは、たしか違うシステムだったと思うので。

前田浩司委員 同感なんですけれども、マーカーを引くためには、やはり使い方というよりも検索という機能が一番気になるころにはなります。当然データを検索して引いていくということになるので、一つずつその辺

の機能を初歩から確認していきたいかなというところでもあります。

伊場勇委員長 使い方についてですけども、プラス、アプリケーションとして何を入れてどういうふうにするかというところで、違うのも試してみたらどうかということですね。他の市議会、県内、県外でも多く使われたものについて、この前少し皆様にも御紹介しましたが、それについて事務局からお願いします。

田中議会事務局庶務調査係長 県内のタブレットを導入されている他市につきましては、いずれも会議システムは、サイトボックスというアプリケーションを利用されているようです。

伊場勇委員長 数か月前に県内の状況を皆様にも御提示してはいますが、サイドボックスを使って委員会や議会で使用されています。それについても見たらどうかというところについて、皆さん御意見いかがでしょうか。（「見てみたいです」と呼ぶ者あり）見てみたいです。そして、体験もですか。（「はい」と呼ぶ者あり）体験もしてみたいということで、その点についてはもう一致しているという認識でよろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）そうしたら、サイドボックスのほうも、またちょっと使ってみるということで少し調整させていただいて、それはまた機会を設けますので、そういうふうに進めていきたいと思えます。

白井健一郎委員 このデモ体験を終えてということで、皆さんの個人的な意見、体験談を聞いているんですが、私たちは2コマのうちの前半部分で私たちデジタル化推進委員会の委員がやって、その後、他の委員がやったじゃないですか。私はちょっと用事があって帰ったんですけど、その隣でたしかデジタル化推進委員会の方がちょっと教えたりみたいな感じでやったと思います。そのときの感触といいますか、ここにいない議員たちがどのぐらいできたかとか、この選ぶのに当たっては、先ほど山田委員が、自分は2画面がほしいとかいうこともおっしゃいましたし、皆さん

それぞれ選ぶ際の基準があると思うんです。ただ、全員ができる、一番分かりやすいものというのを基準にしたらどうかなと思うんです。前回、ここにいない、デジタル化推進委員会の委員でない方々がやったときは、実際どのくらいできたんでしょうか。皆さん大体ついていっているという感じだったんでしょうか。

伊場勇委員長 僕の認識は、初めはなかなかタッチする場所が小さくて分からなくて、どこどこっていう感じになったし、ちょっと小さいねという意見はもちろんありましたけども、教えたらできるようにはなりました。それをきちんと覚えて運用するには、やはり少し時間が掛かるし、練習期間も要るかなというふうには思いましたけども、全く何もできないというところはなかったというふうに思っています。そんな感じだったかなと思うんですけど、皆さん違いますか。

前田浩司委員 私もお二方の動作を一応確認しておりましたがけれども、講師の方の基本にのっかって、しっかりできていたような認識ではあります。ただし、機能的な部分については、他のメーカーさんの機能が分かりませんが、今回、御用意していただいたモアノートについては、しっかり対応取っておられたと思います。

恒松恵子副委員長 おっしゃるとおり基本的な活用ですね、字を入れたりマーカーを引いたり、もう皆さんできていらっしゃったんですが、実際に議案書とかが入っていなかったのも、もし今度、体験するときは、ページのめくり方であるとか、どのような本棚からこの書類を探すとか、そういう機能もできれば一緒に体験できたらなと思っております。また、議員の力量というか、差があれば、その課題を克服するような手段も必要だと思いますので、やはり実際には議案書を見たいというのが本音です。

伊場勇委員長 実際にその議案書の中に本棚に入れて使ってみるということは、

もちろん可能な限り、ちょっと調整させていただいて、業者にも伝えたいと思います。そのほか参加された方から、何か意見とか、もしあれば、大丈夫ですか。（「はい」と呼ぶ者あり）私が聞いたのは、やはりペーパーレス化というのは、タブレットでできるというのは、イメージできて、紙を印刷する人件費とか、そもそもの紙代とか、そういうのは節約ができるのかなというふうに思うんですけども、やはりペーパーレス化だけじゃなくて、やはりこの委員会を設置した目的でもあるDX、このデジタル化を使ってペーパーレス以外の効果というのも、しっかりその研修の中に入れたらどうかという意見もあったし、それが今後、いろいろなところに良い影響を与えていくんじゃないかという、そこをしっかりとやってほしいというところはちょっと御意見として頂いたんで、ごもつともだなというふうに思いますし、そこはちょっと今後、また研究していくべき一つかなというふうに思います。デモ体験のことについては、そのほか意見あれば。

山田伸幸委員 最後に、執行部が受けたということなんですけど、そのときの様子はどうだったんでしょうか。

島津議会事務局次長 議員のときと変わらないような体験会でした。ただし、質疑応答については専門的なことについて聞かれておりました。セキュリティの関係で、クラウドで運用するのは執行部としては難しいので、例えばサーバーを置くとか、そういった関係の質問がありました。

山田伸幸委員 これは他自治体の話をこの間聞いたんですけど、やはり一番の問題は議会がたとえタブレットを導入しても、執行部がそれをしなかったらペーパーレス化の意味がないと。某自治体では、いまだに執行部は紙を全員が持ってくると、議員だけがタブレットということで、やはり同時に進めることの重要性というのを、その議員は言うておりました。

伊場勇委員長 そのほかに意見はありますか。（「なし」と呼ぶ者あり）それ

では、このタブレットのデモ体験については、次に向けての方向性も見えましたので、そのように調整させていただきます。では、次の議題にちょっと移ろうと思うんですけども、具体的にタブレットを導入するに当たって予算が掛かってくる話なんですけれども、実際には入札なのかといった購入の仕方についても、少し議論しておこうと思うんですが、いかがでしょうか。

山田伸幸委員 入札以外だったら、提案型ということになるかと思うんですけど、その時に、例えば議員がそれに入ることができるんでしょうかね。これは普通、議会事務局なり執行部なりが対応するんじゃないかなと思うんですけど、議員もそれに入れるんですかね。どうでしょうか。

伊場勇委員長 いや、議員は多分入れないと思いますが、まず、事務局から他市の状況等も踏まえて、御意見あればお願いします。

島津議会事務局次長 例えば、最近入れられた防府市なんかは、アプリケーション、それから実際の端末について、プロポーザルで行われたというふうに聞いております。ただし、プロポーザルの審査員までは把握しておりません。

伊場勇委員長 アプリケーションの種類やその機材の種類については、プロポーザルだったら審査員がいるんですよね。これ議会でプロポーザルって今までしたことあるんですか。

島津議会事務局次長 ここ8年はございません。それ以前も恐らくプロポーザルはないと思います。

伊場勇委員長 他市の状況も少し調べてみることも必要かなと思うんですけども、これプロポーザルになると、また新しい決まりとか、仕組みとかを作っていかなきゃいけなくなるんですかね。

島津議会事務局次長 議会事務局としてもプロポーザル方式は今までやったことがありませんので、今回もしやるということになれば、その辺をきちんと研究検討して実施したいというふうに思います。

伊場勇委員長 実際、例えば12.9インチで、このアプリケーションがいいというふうに、この委員会で決めていくわけじゃないですか、基本的に。

島津議会事務局次長 例えば、入札にしてもプロポーザルにしても、仕様書等を作ってそれに合致するもので入札を行いますので、特に、絶対にこれというような指定はしてないのではないかとこのように思います。

山田伸幸委員 これは、サイドブックスを使っている自治体の例なんですけど、実際に、12.9インチを持たされているんですけど、やっぱりセキュリティーの関係でかなりがちがちになっていて、それが足かせになって、逆に動きが遅いということを言っていたんですね。だから、本当にこうサクサク動くことが、やはり議案の検討なんかでも必要になってきますし、資料読み込む場合は、次から次へページをめくって、それに対応できるかどうかということは非常に大事な点となってくると思うんですけどね。それがやっぱり実際にどの程度のスピードでやられているかというのは、非常に大事な部分じゃないかなというふうに思います。

伊場勇委員長 そうですね。速度が遅くて使いにくかったら意味ないので、セキュリティーも大事ですけど、そういうふうに思います。ちょっと導入方法についてと調達方法なんですけども、それについては今いろいろ課題もあるかなと思いますので、これはちょっと置いておきましょう。それから次に移りますけども、今後の調査研究について。先ほどちょっとタブレットのデモ体験についても、御意見がほかの議員からもありましたけれども、ペーパーレス以外の効果について、どういうふうに議会のDXを進めるかというところで、前回私から、効果と役割について幾つ

か出させていただきましたが、議会基本条例との関わり方とか、議会機能の強化について提示したんですが、これについてももう少し、例えば研修を入れながらしっかり固めていかなきゃいけないのかなというふうに思うんですよ。こうだから、タブレットを入れてDXを進めていくんですよって、議会のICT化を進めていくんですよというところですね。それに当たって、議会アドバイザーの長内さんという方が、先日の議会運営委員会で、アドバイザーとして委嘱されることが決定いたしましたので、その方になるべく早い時期に、議員研修という形で機会を設けたらどうかなというふうに思うんですけど、議会DXについてですね。もっといろいろこういったことを盛り込んだほうがいいんじゃないかとか、何かそういうことがあれば、御意見を頂きたいんですけど、いかがでしょうか。

藤岡修美委員 是非早い時期に研修会をやったほうがいいと思います。先ほど、協議会というか、スマートシティの研修も受けて、その辺の議会として取り組めることもあるんじゃないかと思うんで、その辺の情報も取り入れながら、研修を受けたら面白いかなと考えます。

山田伸幸委員 議会アドバイザーに決まったということなんですけど、長内さんというのはどういった得意分野というか、それぞれあろうかと思うんですけど、例えばこのDXについては、どういう所見、研究をしてこられたのか。その辺分かりますか。

伊場勇委員長 ちょっと事務局が今調べていますので、プロフィールは、どこにいたかというので、コピーしましょうか。コピーしていただいて、皆さんに提示しようと思います。この間で、かねてから言っています、山口市に視察に行きたいなという件。行けるかなというところですね。感染者が多いので、なかなか行けないんですけど、山口市は、今ちょうど改選時期でバタバタされていますので、どっちにしろ来月の話になるかなと思うんですけど、皆さんの情報で、もし違うところがいいんじゃない

いかというのであれば、ちょっと違うところでも探したほうがいいかなというふうに思ったりするんですけど。事務局、山口市のその後の状況とかは特に変わったりしていないですよ。

島津議会事務局次長 3月以降は特に連絡を取っておりませんので、分かりませんが、視察は恐らく受け入れていると思います。

伊場勇委員長 受け入れているのであれば、状況も見定めながらですけど、これは計画を作っていこうかなというふうに思います。今行かないほうがいいとか、行ったほうがいいとか、なかなか判断が難しいんですが。

山田伸幸委員 それこそ下関市はどうなんですかね。議会のほうがそういうふうに対応してやっているなら、議会がさっき言われたようなことを、どのように取り入れてきたのか。もし先進事例でもあれば、それも見ておかなくちゃいけないんじゃないかなと思いますけど。

伊場勇委員長 下関市は議員が持ってきた人は自分のものを持ってきてやってという話になっているので、ちょっと状況が違う。スマートシティとその議会の関わり方となると、その辺はあるのかもしれませんがね。

山田伸幸委員 いや、だから一番肝腎なのは、私たちがこのDXの委員会として、ただ単にタブレット化だけが目的じゃないということです。今、先進的と言われているスマートシティに議会がどのように取り組んでいるのかという点が、もし何かしらの前進面を築いているのなら、そういうのも実際に学んでいく必要があるんじゃないかなと思いますよ。

伊場勇委員長 今の御意見に対してどうですか。

藤岡修美委員 賛成です。

恒松恵子副委員長 はい、賛成です。ただ、ペーパーレス以外の効果について全くよく見えていないので、その辺りもしっかり勉強したいと思っております。

伊場勇委員長 それでは、研修、視察等行けるところにちょっと行って、リモートできるようなら、リモートで進めていきたいと思えます。議会アドバイザーの長内さんの件については、何か少し情報がありますか。今、頂いたものについては。

山田伸幸委員 今プロフィールを頂いて見たんですけど、これ決して、IT化というか、そういった面でリードされてきたわけではないというふうを受け取っていいんでしょうか。

島津議会事務局次長 他市においては、議会のICT活用とデジタル化というような講師もされていらっしゃるというようなお話も聞いたことがあります。

伊場勇委員長 他市でそういう講話をされているので、それなりに経験と知識、実績、実数等々お持ちなんだろうなというふうに思います。

島津議会事務局次長 いろんな他市を見たり、アドバイザー等をやられていらっしゃる方だというふうに認識しておりますので、他市の状況は把握しておられるというふうには思います。

伊場勇委員長 本日は、タブレットとアプリケーションのデモ体験のフィードバックをちょっとまとめたかなと思ったのと、調達に向けての動き、そして今後の研究、視察研修についてもちょっと決めたかったので、お話しできたかなというふうに思うんですが、そのほか何かございますか。

白井健一郎委員 タブレットを使って、ペーパーレス以外の効果が何かあるか

というところに関わる話として、なぜペーパーレス化が重要なのかというところをちょっと確認しておきたいんですけど、それだけ便利になるということがまずあると思います。地球環境の問題、環境問題というのが取り上げられていますよね。私はここで、そこを一つ確認しておきたいなと思います。

伊場勇委員長 確認しておきたいというのは、ペーパーレスに当たって、環境問題はすごい重要だと思うんですよ。それは私も同じ意見ですけど、その他の方もいかがですか。環境問題という観点から、ペーパーレス化。

藤岡修美委員 前回、委員長が出された資料の中にSDGsの取組がペーパーレスと一緒に書いてあるので、もちろん入っていると私は考えています。

山田伸幸委員 よくあるんですけど、審議途中で、発言とか紹介されたものが即検索が可能ならば、より新しいデータが得られたりしますが、今は議場にそういうパソコンの持込みができない、あるいは委員会でも基本的にはできません。過去に蓄積した膨大なデータを駆使して、その中から必要なデータを取り出すということができると思うんですけど、その辺の基本的な使い方が可能なのかどうかということも一つの大きな課題だと思います。やはり過去のデータがサーバーなり、クラウドなりに上がっていないと、それを利用できないということになりますので、その辺がもしできるならば、審査にも非常に役に立ってくるというふうに思っています。

伊場勇委員長 この議会機能の強化で、このタブレットを導入するに当たって前回出した資料がありますが、まず、迅速な情報収集、そして議案審議、委員会活動での活用でスピーディーな運営ができるということ、また、市民への迅速的確な情報提供、今起きていることをすぐ発信することができるのであれば、市民の方にもすぐに情報提供できます。また、その運営の効率化として、議会スケジュールの一元管理、そして、それを

迅速に共有することができます。ペーパーレス化というのは、もちろん印刷物の整理、持ち運びというのが不要になってきますし、先ほど言いました環境問題、SDGsへの取組もできます。事務作業、印刷作業、資料の配布作業等も軽減できますし、電子データになりますので、たくさんの方のまた細かいデータも蓄積することができるというふうに思います。先ほど山田委員がおっしゃられた過去の資料も安易に取り出せると、より効率的な審査ができるというふうに思います。それに加えて、もう一つ、3番目としては、危機管理体制の強化ですね。システムの導入が必要かもしれませんが、安否確認とか、どこでどういうことが起こっているのかという双方向型の被害情報の共有ができるかもしれません。そういうところも前回提示させていただいたんですが、これに加えて、何かあるのであれば、どんどんこれを言い方も少し変えていくとか、これをもっと磨きあげていきたいというふうに思っているんで、そこは皆様で協力し合ってやるべきかなと思っています。また、次の委員会をするときには、ここについて、こうしたほうがいいんじゃないとか、こういう言い方がいいんじゃないというのを提案して、その提案についてみんなでもんでいきたいんですよ。いいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）そういうふうに進めていきたいので、しっかりチェックして考えて、委員会に臨んでいただきたいというふうに思います。そのほかでありますか。

藤岡修美委員　せっかくのデジタル化推進委員会なので、こういったペーパーを手元に置くんじゃなくて、できたらパソコンを皆さんで持ち込んで、今までやっていたデータをパソコンに入れて、それを見ながらというのもありじゃないかなと考えます。

伊場勇委員長　おっしゃるとおりだと思います。ありがとうございます。我々が一番先駆的に取り組む委員会でなければいけないと思いますので、今日少し違う場面で、LINEで資料を共有しましたが、基本、今後ノートパソコンで議事を進めていきたいなというふうに思います。私もパソコンはありますが、基本、この厚い資料を持ってきていますから。

委員長が持つてくると失格かもしれませんが、次からは、しっかり皆様共通して取り組んでいきたいというふうに思います。そこは、少しお願いの部分もありますけども、やっていきたいなというふうに思いますので、協力してください。お願いします。そのほかありますか。（「なし」と呼ぶ者あり）それでは、以上で本日のデジタル化推進特別委員会を終了いたします。お疲れ様でした。

午後 2 時 5 0 分 散会

令和 4 年（2022 年） 4 月 2 2 日

デジタル化推進特別委員長 伊 場 勇